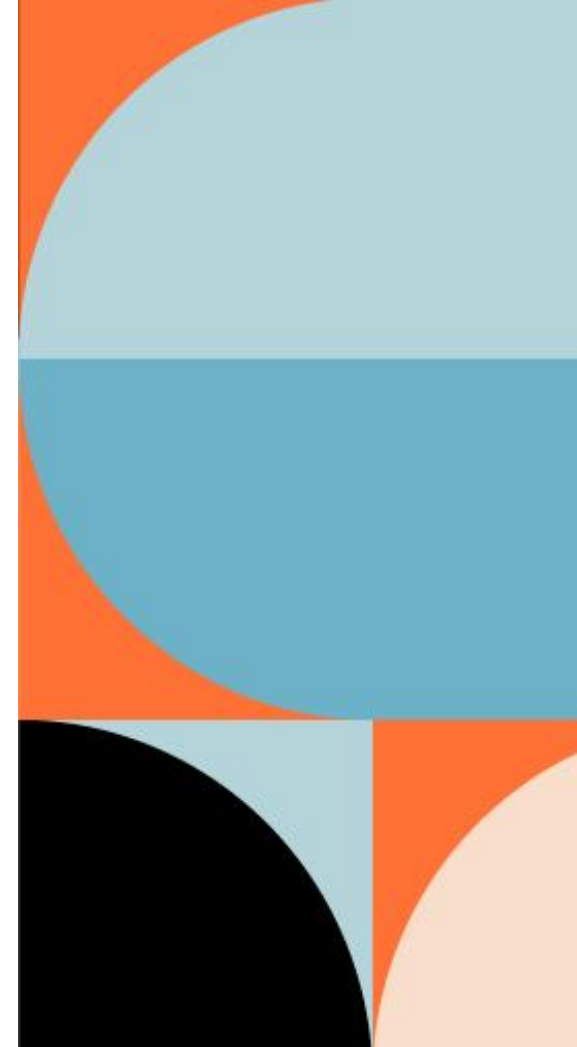
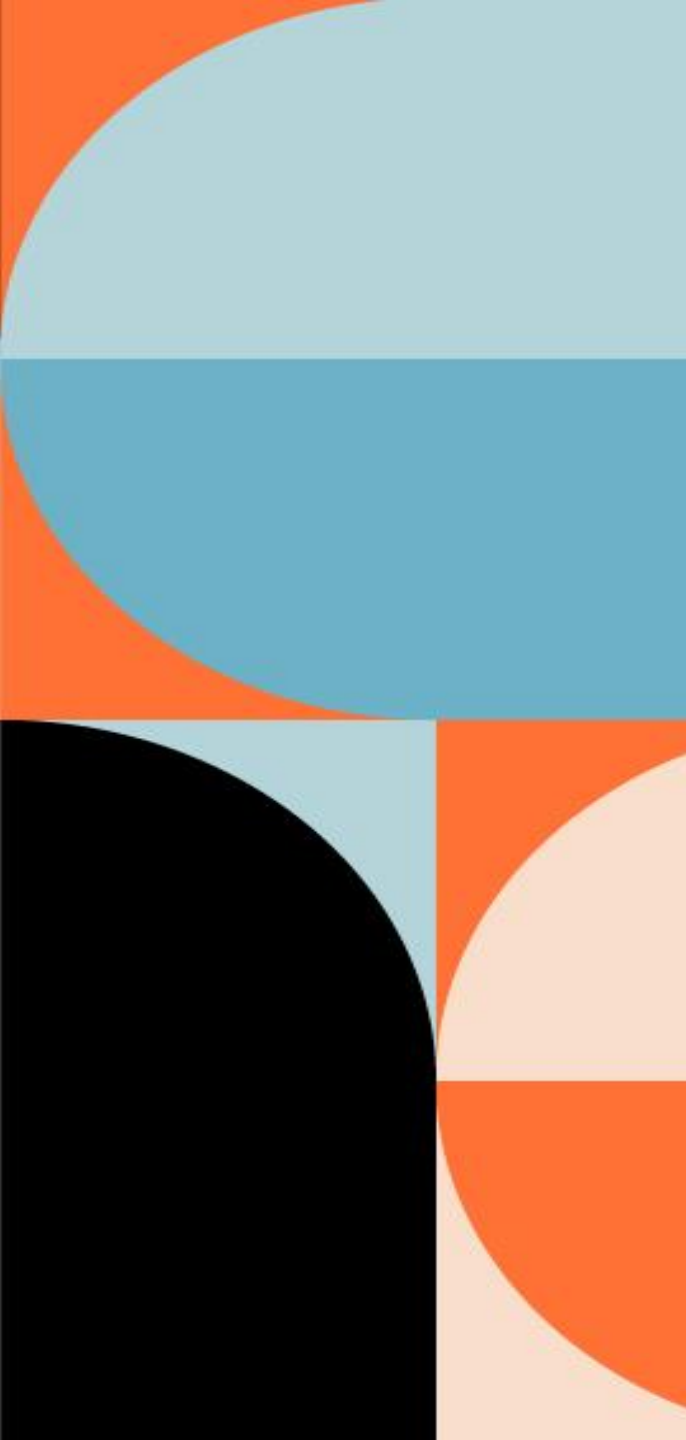


経済産業省 「フェムテック等サポートサービス実証事業」 参考資料

事務局 朝日広告社
PMO担当 NTTデータ経営研究所





目次

0. はじめに	P 3
1. 女性の健康及びフェムテック市場を巡る動向	P 5
2. 採択事業者のフェムテック『開発』好事例集	P12
3. フェムテック『導入』企業の好事例集	P20

0 . はじめに

0. はじめに

フェムテック市場の成長に向けて、投資拡大や、質の高いフェムテック事業数の増加、フェムテック製品・サービス等の職域に導入拡大など、**需給双方が活性化することが重要**である。

本資料では、市場に係る関係者の取組促進に向け、フェムテック事業への投資を検討する投資家等向けの市場情報や、フェムテック事業開発に関心のある起業家等向けに開発プロセスのモデル事例、製品・サービス導入を検討する企業や自治体等職域向けに導入事例の3つの項目について取りまとめている。

項目	① 女性の健康及び フェムテック市場を巡る動向	② 採択事業者の フェムテック『開発』好事例集	③ フェムテック製品・サービス 『導入』企業の好事例集
目的	フェムテック関連製品・サービスの充実、質の向上に向け、本領域への市場活発化に資する情報を取りまとめ、提供する	フェムテック関連事業を成功させるためのベストプラクティスやチャレンジを取りまとめ、新たな創出の足掛かりを提供する	フェムテック等サポートサービスについて福利厚生等として、職域導入を検討する企業等に対し、参考となる事例を提供する
想定読者	- 投資家 特に、現時点では本領域への投資は実施していない段階 - フェムテック市場や女性の健康について関心のある方全般	- フェムテック事業の立ち上げを検討する企業の開発担当者 - フェムテック事業に関心のある起業家等	フェムテック等サポートサービスの導入を検討する企業、自治体等

1. 女性の健康及び フェムテック市場を巡る動向

1.女性の健康及びフェムテック市場を巡る動向

① はたらく女性の健康における政府の取組

政府が毎年6月に決定している女性の活躍を促進するための方針である「女性版骨太の方針」の2022年度、23年度版にフェムテックの利活用について記載がされた。政府方針に基づき、フェムテックを用いた女性の健康支援が今後も拡大することが期待される。

女性版骨太の方針2023 概要

女性版骨太の方針2023（女性活躍・男女共同参画の重点方針2023）（原案）概要

I 女性活躍と経済成長の好循環の実現に向けた取組の推進（⇒詳細はP2参照）

社会全体で女性活躍の機運を醸成し、多様性を確保していくことは、男女ともに自らの個性と能力を最大限に発揮できる社会の実現のために不可欠であるとともに、イノベーションの創出と事業変革の促進を通じて企業の持続的な成長、ひいては日本経済の発展に資することを踏まえ、女性の活躍をけん引するため、下記のような施策を講じる。

① プライム市場上場企業を対象とした女性役員比率に係る数値目標の設定等

- ・ 令和5年中に、取引所の規則に以下の内容の規定を設けるための取組を進める。
 - ①2025年を目途に、女性役員を1名以上選任するよう努める ②2030年までに、女性役員比率を30%以上とすることを目指す ③左記の目標を達成するための行動計画の策定を推奨する。
- ・ あわせて、企業経営を担う女性リーダー研修の更なる充実、リスキリングによる能力向上支援、好事例の横展開など、女性の育成・登用を着実に進め、管理職、更には役員へとという女性登用のパイプラインの構築に向けた取組の支援を行う。

② 女性起業家の育成・支援

- ・ ロールモデルとなる女性起業家の創出・育成支援のため、政府機関と民間が集中支援を行うプログラム（J-Startup）において、女性起業家の割合を20%とすることを旨とする。
- ・ あわせて、女性起業家のためのネットワークの充実、女性起業家による資金調達への支援等を行う。

II 女性の所得向上・経済的自立に向けた取組の強化（⇒詳細はP3参照）

男女が家事・育児等を分担して、ともにライフイベントとキャリア形成を両立できる環境づくりに向けて、また、女性に多い非正規雇用労働者や経済的に厳しいひとり親世帯の現状等を踏まえ、女性の所得向上・経済的自立に向けた取組をあらゆる観点から進めるとし、下記のような施策を講じる。また、仕事と健康の両立による女性の就業継続を支援する。

① 平時や育児期を通じた多様な柔軟な働き方の推進

- ・ 長時間労働慣行の是正、投資家の評価を利用した両立支援の取組の加速、「多様な正社員」制度の普及促進等に取り組む。
- ・ 「男性育休は当たり前」になる社会の実現に向けて、制度面と給付面の両方からの対応を抜本的に強化する。

② 女性デジタル人材の育成などリスキリングの推進

- ・ デジタルスキル標準やITパスポート試験の活用促進、女性デジタル人材育成プランの実行等に取り組むなど、リスキリングのための環境を整備する。

③ 地域のニーズに応じた取組の推進

- ・ 地域のニーズに応じた女性活躍を支える各地の男女共同参画センターの機能強化を図るとともに、独立行政法人国立女性教育会館（NWECC）による各センターへのバックアップの強化等を図るため、同法人の主管の内閣府への移管や、同法人及び各地のセンターの機能強化を図るための所要の法案について、令和6年通常国会への提出を目指す。

⇒これらの取組により、いわゆる「L字カーブ」（右図参照）が生じない背景にある構造的な課題（※）の解消を目指す。

（※）長時間労働を中心とした労働慣行、女性への家事・育児等の無償労働の偏り、固定的な性別役割分担意識等

III 女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現（⇒詳細はP4参照）

女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会を実現するため、下記のような施策を講じるほか、ハラスメント対策や、政策決定過程のあらゆる段階における女性の参画を確保し、ジェンダーの視点を反映するための取組、安全保障の分野における女性の参画に取り組む。

① 配偶者等からの暴力への対策の強化

- ・ 配偶者暴力防止法改正法の円滑な施行（令和6年4月）に向けた環境整備等に取り組む。

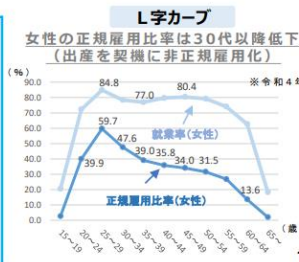
② 性犯罪・性暴力対策の強化

- ・ 被害が潜在化・深刻化しやすいことをはじめ、多様な被害者がたもたうことと相談できるよう相談先等の周知を徹底する。
- ・ 「性犯罪・性暴力対策の更なる強化の方針」や「痴漢撲滅に向けた政策パッケージ」に基づく施策を着実に実行する。

④ 生涯にわたる健康への支援

- ・ 事業主健診の充実、フェムテックの利活用、生理休暇制度の普及促進、女性アスリートが抱える健康課題等に取り組む。

⑤ 地域のニーズに応じた取組の推進（再掲）



④ 生涯にわたる健康への支援

事業主健診の充実、フェムテックの利活用、生理休暇制度の普及促進、女性アスリートが抱える健康課題等に取り組む。

実現のために（記載内容より一部抜粋）

- ・ 事業主健診に係る問診に月経困難症、更年期症状等の女性の健康に関連する項目を追加、産業保健体制の充実。
- ・ 生理の貧困への対応として、地域女性活躍推進交付金により生理用品を提供した事例や各地方公共団体による独自の取組の調査・公表。
- ・ フェムテックを利活用し、企業、医療機関、自治体等が連携して行う実証事業への支援、全事業の効果測定を実施。
- ・ 女性の健康に関するナショナルセンターとして国立成育医療研究センターに研究の司令塔機能をもたせ、最新のエビデンスの収集・情報提供。

1.女性の健康及びフェムテック市場を巡る動向

① はたらく女性の健康における政府の取組

厚生労働省では働く女性がいきいきと活躍できる環境づくりを目指し様々な支援等を実施している。特設サイトでの女性向けに情報発信や、企業が労働者の仕事と育児の両立支援をする際、必要な雇用環境の整備を行うための助成金提供や認定も行っている。

女性向けの情報発信

■ 働く女性の心とからだの応援サイト



- 女性を雇用する企業にも役立つ情報を掲載
- 女性特有の健康課題について、**法律や行政が提供する制度**や、社員へのリテラシー向上に資する**研修用の資料・動画**を紹介
- 症状等に応じて、行政が提供する情報が検索可能

■ 女性の健康推進室 ヘルスケアラボ



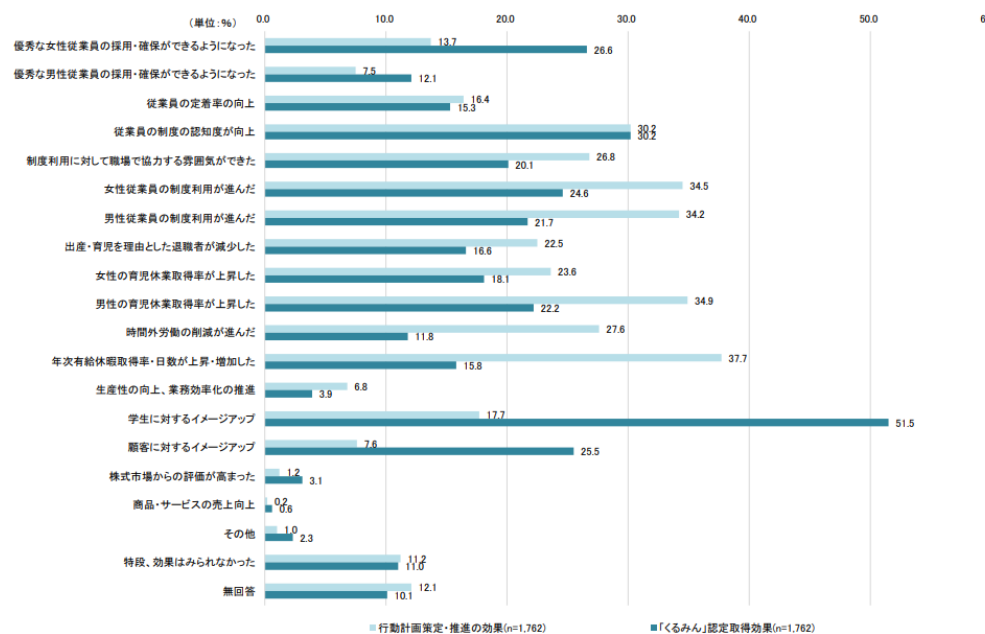
- 健康課題をライフステージ別に示しており、**各健康課題に対するセルフチェック**で参考に活用できる
- 疾患等に応じて、適した**医療機関を検索可能**
- 症状等に対し、具体的に取り組むべき事項が掲載
- **各掲載内容は専門医が監修しているため、信頼性が高い**

出典：「働く女性の心とからだの応援サイト」ホームページ <https://www.bosei-navi.mhlw.go.jp/>
「女性の健康推進室 ヘルスケアラボ」ホームページ <https://w-health.jp/>

子育てサポート企業の認定・助成制度

- 労働者の仕事と育児両立に向けた計画策定・達成企業が厚生労働大臣から「子育てサポート企業」として「くるみん認定」を受けることができる。
- 認定企業は労働者の子育て支援環境整備等に活用できる助成金申請が可能。

行動計画策定・推進効果及び「くるみん」認定取得効果



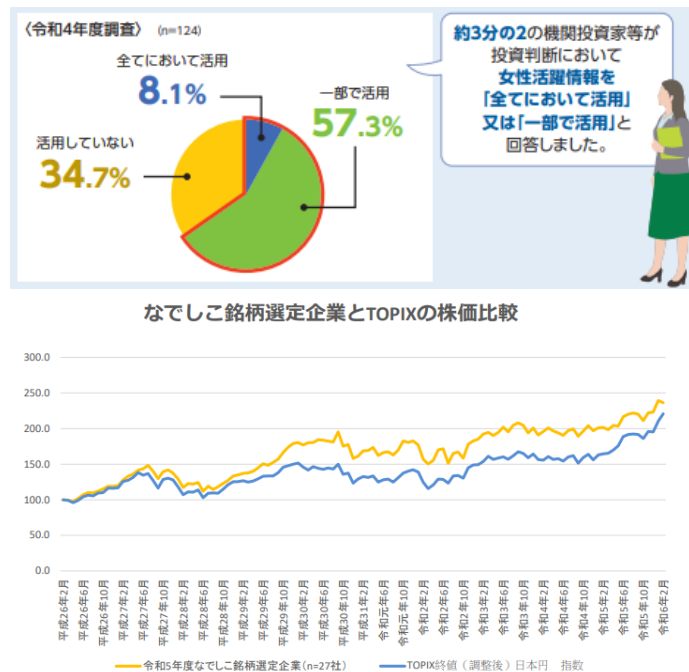
出典：労働政策研究・研修機構「次世代育成支援対策推進法の 施行状況に関する調査」（2021年）より

1.女性の健康及びフェムテック市場を巡る動向

① はたらく女性の健康における政府の取組

経済産業省では、女性活躍推進に向け、ダイバーシティ経営に必要とされる取組や開示状況を評価し、優れた上場企業を「なでしこ銘柄」として選定。選定により市場評価や採用効果につながっており、企業の女性活躍支援の活発化を後押ししている。

市場からの評価向上の可能性がある

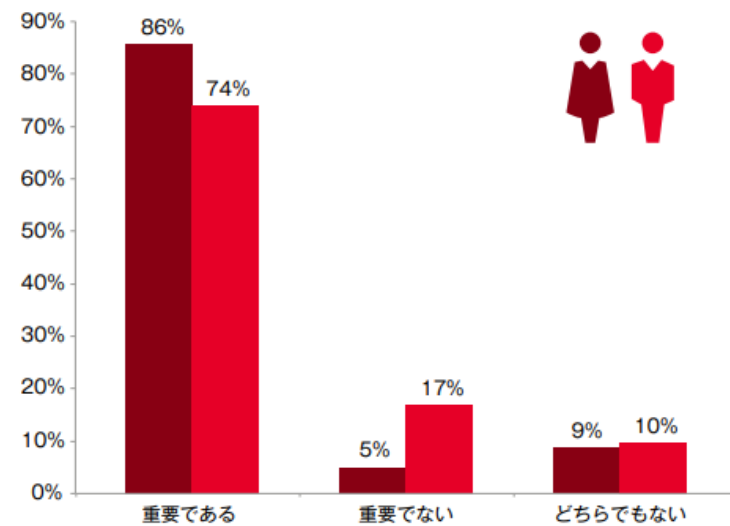


- 半数以上の機関投資家が投資判断において女性活躍情報を活用しているとの回答であった。

出典：(上段) 内閣府「ジェンダー投資に関する調査研究 (令和4年度) 報告書概要版」より
(下段) 経済産業省 令和5年度「なでしこ銘柄」レポートより

採用効果が高まる可能性はある

多様性、平等性、多様な人材に対する受容性に関する方針は、就職先を決める上でどの程度重要ですか？



回答者：
ミレニアル世代（1980年～1995年生まれ）
男性 1,349人、
女性8,756人

- ミレニアル世代は、就職先を選定する際に、企業の「多様性や受容性の方針」を重要視している。特に女性はこの傾向が顕著である。

出典：PwC「ミレニアル世代の女性：新たな時代の人材」（2015年）より

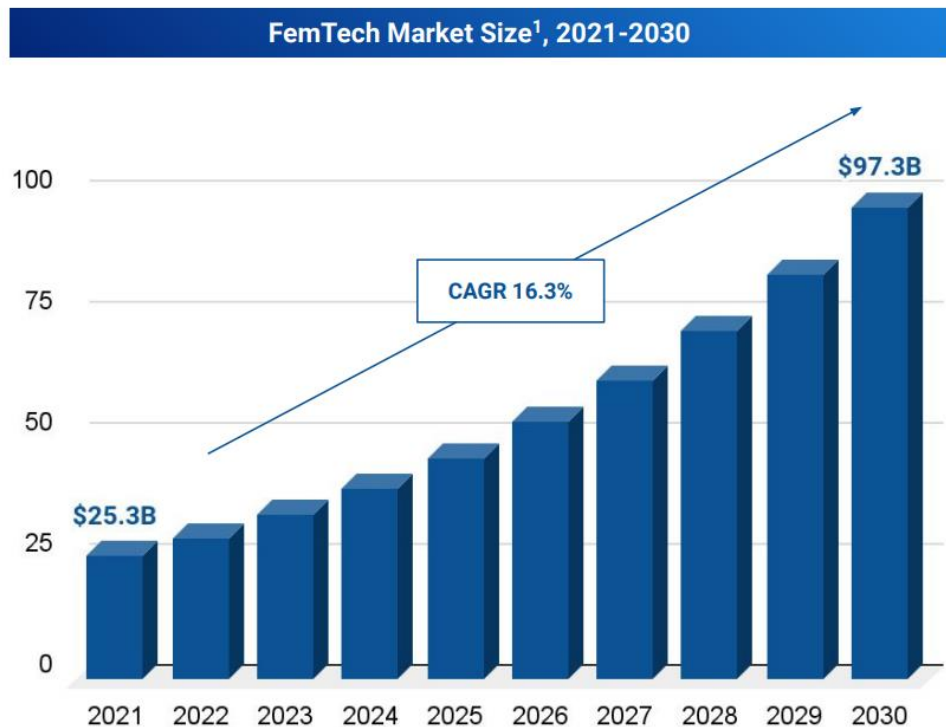
2-1.女性の健康及びフェムテック市場を巡る動向

② 日本・米国のフェムテックに関する市場の動向

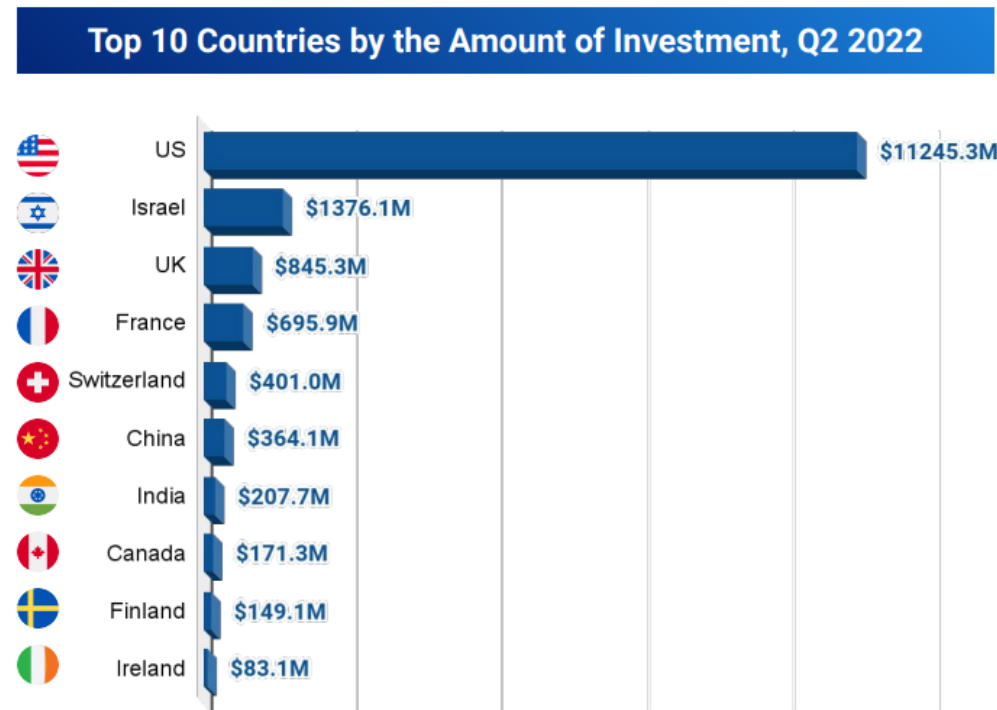
世界のフェムテック市場規模は2021年には253億ドルに達し、**2030年には973億ドルに拡大**すると予測されている。2022～2030年の年平均成長率は**16%を超える**と予測されている。

フェムテック業界への投資も増えており、世界全体の投資額の63%近くを占める米国は、フェムテックに特化した企業へのフェムテック投資家の数も最も多く、**110億ドル以上が投資**されている。

世界の市場規模の推移



世界の投資額の上位10カ国



出典：FemTech Industry Landscape Q2 2022 より

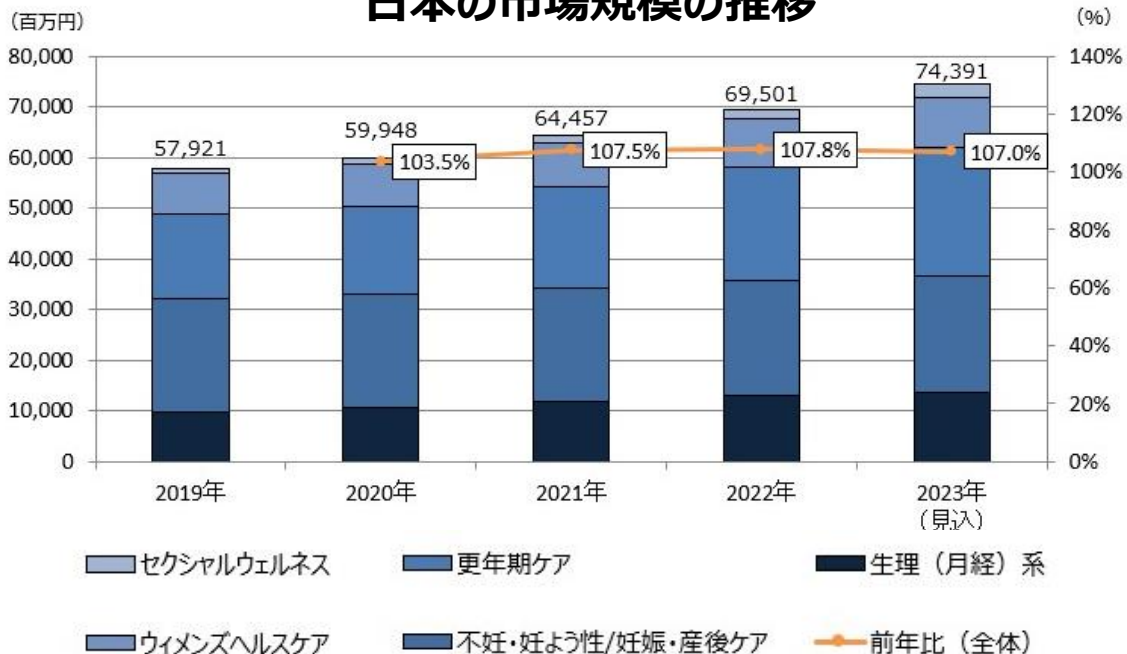
2-1.女性の健康及びフェムテック市場を巡る動向

② 日本・米国のフェムテックに関する市場の動向

日本における市場規模も、2022年には**695億100万円**であり、**前年比107.8%**と増加傾向であり、2023年も伸びの勢いは続くと見込まれている。

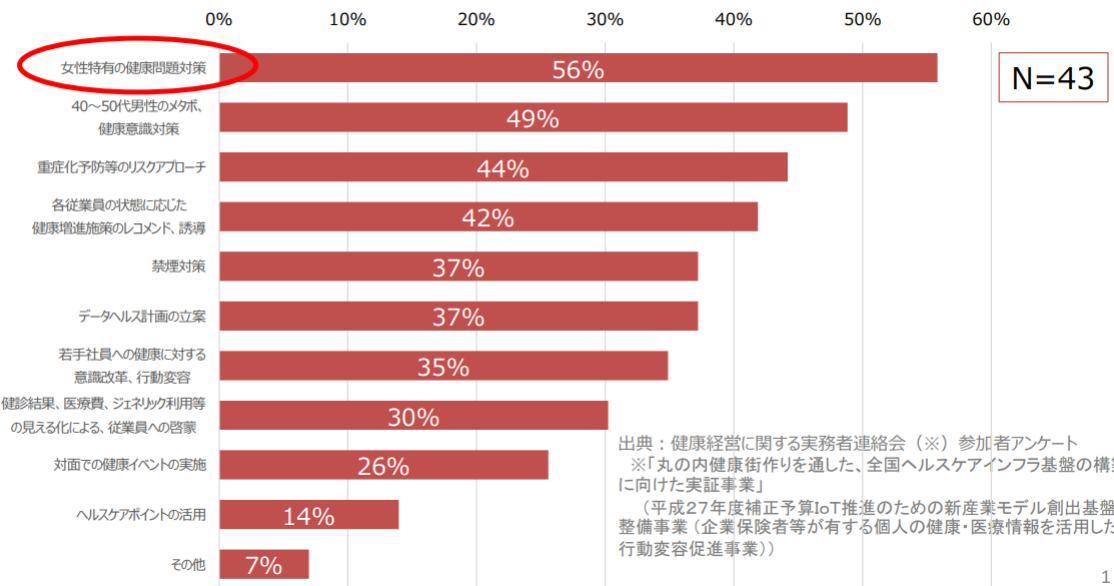
健康経営を推進する企業は、「**女性特有の健康問題対策**」に対する関心が**56%**と高く、企業からのフェムテックに対するニーズが増す可能性があると考えられる。

フェムケア&フェムテック（消費財・サービス）
日本の市場規模の推移



健康経営を推進する企業の関心

「健康経営」の取り組みで関心が高いものをお聞かせください。（複数選択可）



出典：（左）株式会社矢野経済研究所 プレスリリース「フェムケア&フェムテック（消費財・サービス）市場に関する調査を実施（2023年）」より
（右）経済産業省「健康経営における女性の健康の取り組みについて」（2019年）より

1.女性の健康及びフェムテック市場を巡る動向

③ 日本における資金調達の事例

日本においてもフェムテック企業に対して継続的に出資事例が出ており、フェムテック市場への期待が高まっている。

フェムテック企業 国内の資金調達（一例）

	企業名	資金調達額	第三者割当増資 引受額
1	株式会社ファミワン	累計調達額3.1億円	- SUMISEI INNOVATION FUND - キャナルベンチャーズ株式会社
2	fermata株式会社	総額2.1億円	- 株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ - 株式会社ディープコア - iSGSインベストメントワークス - 伊藤忠商事株式会社
3	vivola株式会社	約1.2億円	- KDDI Open Innovation Fund 3号 - 株式会社みらい創造機構 - GxPartners - ANRI株式会社 - 株式会社ディープコア
4	Flora株式会社	累計調達額7,500万円	- 株式会社Akatsuki Ventures - 株式会社グロービス - 株式会社フェニクシー - PE&HR株式会社 - エンジェル投資家
5	株式会社陽と人	1,000万円	株式会社Zebras & Company

2.採択事業者の フェムテック『開発』好事例集

2.採択事業者のフェムテック『開発』好事例集 掲載企業一覧

フェムテック開発企業の参考となるように、異なる企業規模と事業分野から3事業者を抽出し事業開発経過と工夫を取りまとめた。本頁では実証概要を示し、次ページ以降各社の事例を紹介する。

代表団体	豊田通商株式会社	Lasiina株式会社	株式会社YStory
事業名	日本・ベトナムにおける「製造IoT」×「女性の健康管理」による生産性の見える化で女性のパフォーマンス改善を実現	働く女性の尿モレ（軽失禁）不安解消・ウェルビーイング向上を図るサービスの開発と実証	更年期デジタルヘルスケアアプリ
事業概要	- 製造現場で働く女性従業員の健康課題や雇用主側が抱える生産性向上や労働環境改善に向けた課題の解決を目指す - 従業員向けに、セルフケアや職場でのコミュニケーションに関するセミナー開催、フェムケア製品の配布等を実施。また独自の生産性と女性の体調スコア分析により、女性の体調による生産性変化を可視化	- 軽失禁の不安解消・QOL向上を目的に、尿モレ検知デバイスと連動したセンサー搭載吸水ケア専用品を用いたモニターテストを実施。尿モレを検知するとスマホ経由でパッドの交換のタイミングを利用者に通知する - 参加者から得られたデータとアンケート結果を分析し、女性のキャリアに与えた影響や他の要因との関連性を検証	- デジタルヘルスケアアプリ活用し、更年期症状がある方を対象に、利用者ごとに個別化したヘルスケアアドバイスの提供などのサポートサービスを提供 - アプリ内で症状の記録や医学的エビデンスに基づく症状管理アドバイスやセルフケア提案、医師とのデータ共有を通じた効果的な診療支援を行う
活用した製品・サービス	- プラットフォームアプリ - 月経/更年期のスコア化システム×製造IoTのシステム連携によるパフォーマンスレポート	センサー搭載の吸収パッド	ヘルスケアアプリ
主な対象	製造現場で働く女性	軽失禁に悩む働く女性	35歳以上の働く女性
展望	- 女性の健康データ×ものづくりデータでビックデータ基盤を構築 - 製造業の企業・女性従業員に対してAIによるパーソナライズした施策を提供し、女性が我慢する必要がない環境整備に貢献	- 尿モレの問題を社会に広く啓発 - 幅広い年代の女性が抱える軽失禁の悩みに応え、生活の質・QOLの向上に貢献	効果的なセルフケアにより、医療機関の医療負担の軽減や、女性従業員の健康促進を通じた労働生産性の向上に貢献

創業	1948年7月
事業紹介	- 化学品・エレクトロニクス、機械・エネルギー・プラントプロジェクト、自動車事業などを展開するトヨタグループの総合商社 - テクノロジーを通じて女性のパフォーマンス向上や自発的な社会進出等を目指す株式会社Flora（以下、Flora）に出資して事業展開 - 製造現場に寄り添った女性パフォーマンスの改善のため、日本・ベトナムの製造現場における女性特有の健康課題による生産パフォーマンスの見える化と、製造現場で働く女性の働きやすさ・働き甲斐の改善を目指す
企業サイト	豊田通商株式会社（以下、豊田通商） https://www.toyota-tsusho.com/ 株式会社Flora（以下、Flora） https://www.flora-tech.jp/ ※参加団体

立ち上げ：経済的メリットを打ち出すことで周囲の理解を得て事業推進

豊田通商社内で、2050年に向けた新規ビジネスが検討された。インキュベーショングループリーダーの佐藤氏と豊田通商のグループ会社であるToyotsu Safety & Automotive Components Vietnam Co., LTD.（以下、TSAV）に出向していた安達氏はフェムテック市場の拡大に着目した。世界の労働人口の約8割である約27億人は製造業で働いており製造現場に寄り添った女性パフォーマンスの改善を喫緊の課題として捉えたことと、安達氏が縫製業に関わっていたことから、縫製業における女性のパフォーマンスを改善するためのフェムテックサービスに立ち上げに取り組むこととした。

全くの新規事業のため、立ち上げ当初は社内の意思決定層から理解が得づらかった。しかし「フェムテックは女性目線で女性のためのもの」という捉え方ではなく、業界課題に着目して事業の意義を再設定したことで理解を得られるようになった。具体的には、**女性の働く環境整備による経済損失の減少や生産性向上といった経済的メリットを強く押し出しすることで各ステークホルダーにあった意義付けを行った**という。



トヨタケ工業での
現場打ち合わせの様子

スタートアップ企業との連携：相手の立場に立って二人三脚で進める

同社は本事業で、製造現場で働く女性の健康課題の改善に資するフェムテック等製品の提供を検討する中で、女性の健康と働きやすさを推進するサービス開発・展開を目指していたFloraとのコネクションを得た。関わり合いを通じ、自社とは異なるノウハウやリソースを持っていることを確認し、資本業務提携に至った。現在は事業の成長を目指しFloraと二人三脚で事業を展開している。フェムテックサービスのプロバイダーではない豊田通商が、フェムテックサービスを提供するスタートアップ企業であるFloraとパートナーシップを結び事業を推進するにあたり、**KPIを決めてPDCAを回すスタイルではなく、アジャイルに事業を推進するFloraのスタイルを尊重して、密にすり合わせながら進めている。**



fukuske
吸水サニタリーショーツ



fukuske
美温活
腹巻インナー



(関)ファーベスト
光電子®
ボディウォーマー

フェムケアグッズの一例

海外実証：ベトナム工場で展開する工夫と課題

本実証は、TSAVのベトナム工場で行われた。ベトナム工場は**従業員の7割以上が女性**であり、宗教的タブーもないため、月経や性についてもフランクに話ができる環境という導入に向けた利点があったという。

しかし、フェムテックアプリの導入は初めてで、従業員は誰も月経カップや吸水ショーツの存在を知らない状況からのスタートとなった。そこで、**フェムテックとは何かを伝えることから始め、吸水ショーツ等の実物を見せて説明をした**。また、女性のカラダの基礎知識（月経・更年期）やセルフケア、職場内コミュニケーションに関するセミナーを開催し、ヘルスリテラシーを高められるよう構成を工夫した。

健康データというセンシティブな情報を取得するため、データを日本に持ち込んで解析等を行っても問題ないかを、ベトナムの顧問弁護士に確認しながら、丁寧に対応を進めた。現地の個人情報保護法改正状況を踏まえ、個人情報のデータの取り扱いに留意しながら、今後もベトナムで事業を推進する予定だ。



TSAVベトナム工場での商品説明会の様子



TSAVベトナム工場でのセミナーの様子

実証事業と今後：成果を可視化し、法人導入やグローバル展開を目指す

今回の実証では、「製造現場で取得されるデータ」と「独自の自動ツールを用いて取得される女性従業員の健康や生活習慣に係るデータ」を統合し、女性特有の健康課題による業務への支障を客観視できるようデータ化した。分析の結果、KPIとしていた各項目では、**サービス利用前後の絶対的プレゼンティズムは平均約18%改善、サービスを使用した職員のヘルスリテラシーは平均約96%改善、実証開始前後で労働生産性損失額は約11%減額した**ことが確認された。製造業は従業員の生産量が数%変化するだけでも会社全体に大きな影響を及ぼすため、成果を可視化することで法人へのフェムテックサービス導入に繋がる可能性が示唆された。

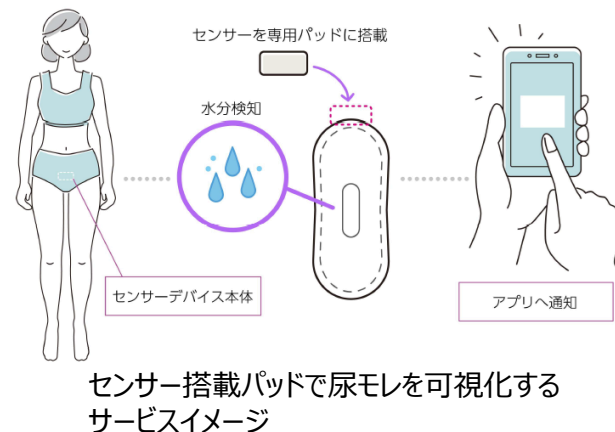
今後は、ICTとの連携を行い、製造業の企業が導入・運用しやすく結果にもコミットするデータドリブンなフェムテックサービス開発を追求していく。さらに、日本だけでなくベトナムやインドなど**アジア進出を目指し**、ビジネスを広げる方針だ。

創業	2022年12月
事業紹介	- 日本製紙クレシア株式会社（以下、クレシア）と共にAI・IoT技術を活用した軽失禁向けサービスを提供 - センサー搭載パッドに検知デバイスを装着し、尿モレ量と時間を自動記録してアプリへ通知 - 世界中の女性を軽失禁の煩わしさから解放し、「私らしい」生活を送る社会の実現を目指す
企業サイト	Lasiina株式会社 https://lasiina.com/ 日本製紙クレシア株式会社 https://www.crecia.co.jp/ ※参加団体

立ち上げ：多くの女性に行動変容を起こすため、日用品にイノベーションを

Lasiina株式会社（以下、Lasiina）は代表取締役の野正氏が富士通株式会社に在籍しながら、出向起業という形態で立ち上げたスタートアップである。尿モレパッドを製造する日本製紙クレシア株式会社に対して、ヘルスケア分野でDX協業提案を行ったことが起業のきっかけとなったという。尿モレパッドや生理用品などの日用製品において、製品そのものの性能向上や、肌触りの良さやマーケティングにおける工夫といった改善は、業界では既に十二分に試行錯誤を重ねられている。そこで、**日用品とIoT・AIを融合させて、多くの女性の行動変容につながるような革新的な製品の開発を目指す**アプローチを選んだ。具体的な事業内容としては、調査を通じて大きなニーズが見込まれる「女性向け軽失禁」の領域にフォーカスを当てることとした。

ニーズの特定：軽失禁に焦点を当て、未知の市場を切り開く



ターゲットを検討する際は、大人用おむつ・尿モレケア専用品等の中で、失禁レベルや年齢、性別等で検討軸を設定した。女性向け製品の販売ボリュームが大きいこと、40歳以上の女性の4割以上が軽失禁を経験していることから、女性の軽失禁に焦点を絞って開発することとした。先行特許の調査結果から、おむつセンサー（おむつの中に敷設して被介護者の排せつを検知するタイプのセンサー）は500件以上出願されており、既に多くのベンダーが参画していることが分かった。「女性向けの軽失禁」の領域については、女性のライフスタイルやニーズにフォーカスした、サービス開発とマーケティングを行えば、収益をもたらす新たなビジネスモデルを確立できるのではないかと考え、取り組むことにしたという。

事業展開：女性が多いフェムテック事業で、男性起業家として活躍

フェムテック事業は女性経営者が自身の困りごとを起点としてサービスを立ち上げるケースが多い中、Lasiinaは男性である野正氏が代表取締役を務める。女性を代表に据えることも一時期検討したが、**男性である自分が女性の健康課題に挑戦することこそが、ジェンダーギャップ解消に必要なだと考えるようになり、現在も代表取締役として事業を推進している。**

野正氏は、今後、フェムテックの取り組みを社会で広げるためには、男性もビジネスとして参画してゆく必要があると話す。男性が女性の困りごとに関心を持ち、理解をすすめることや、どうしたら不安や負担を軽減できるのか、共に考え、行動することが重要という。また、男性がフェムテック事業を円滑に進める工夫として、「生理」「尿モレ」といった女性特有の健康課題について、自身は判らないということを前提に、女性との丁寧なコミュニケーションを心掛けることがポイントの一つと振り返る



試作機の検知デバイスを展示している様子

軽失禁を抱える女性の悩み...

いつもトイレが気になる、
トイレに自由に行けない
状況が不安

「すぐにトイレに行けない職場環境だから、
精神的脅迫もあるかも」

においやシミが気になり、
コミュニケーションに影響
が出てしまう

「仕事中に漏らして早退した。
みんなにバレてたかも。情けない」



自己評価の低下
老け込んだ気分
情けない気持ちになる

実証事業と今後：センシング精度向上と販売体制の確立を目指す

今回の実証では、検知デバイスと連動したセンサー搭載吸水ケア専用品を用い、スマホ経由でパッドの交換のタイミングを利用者にお知らせする「軽失禁向けフェムテックサービス」のモニターテストを、働く女性に対して実施した。モニターテストの結果、**58%の尿モレを可視化できた**。尿モレを検知できなかった原因としては尿モレの少なさが一因に考えられるが、わずかな量でも検知する必要があるのかについては今後の検討課題である。また、41%が尿モレの可視化により不安が軽減し、25%がアクティブに活動できるなどの行動変容に繋がったことが確認された。

今後は、尿モレセンシング検知精度を向上させ、小型化した販売用デバイスの設計・開発・製造・各種認証への対応や、尿モレセンサーサービスの販売体制の確立、**尿モレセンシングデータを起点としたオープンイノベーションビジネスの推進を目指す。**

創業	2023年1月
事業紹介	- AI・メディカルサイエンスを活用した35歳以上の女性へのパーソナライズヘルスケアを提供 - 更年期症状がある方向けのデジタルヘルスケアアプリ『JoyHer（旧HerLife）』では、症状の記録および、医学的エビデンスに基づく症状管理アドバイスやセルフケア提案、医師とのデータ共有を通じた効果的な診療支援等を提供 - より多くの女性たちの身体的・心理的症状の改善と、一層ポジティブで健康的な生活の実現を目指す
企業サイト	https://www.YStoryfemtech.com/

立ち上げ：原体験から市場に不足する更年期支援の必要性を実感

株式会社YStory（以下、YStory）は共同創業者のSherry氏が更年期の症状に直面した際、更年期は女性が誰でも経験するプロセスであるにも関わらず、医薬品を含めて、市場に適切な解決策がないことを実感したことが立ち上げのきっかけとなった。**更年期の治療法を模索する中で、デジタルヘルスの可能性に着目**。共同創業者のJanet氏と共に、コンサルティングやマーケティングの専門知識と経験を活かし、更年期に関するサービスが不足している現状に対する解決策としてYStoryを立ち上げた。

YStoryのサービス構築では、AI解析を駆使して**更年期に関する国際学会のデータを解析し、更年期の動向や効果的な介入を理解**することから始まった。現在ではデータに基づくAI技術を活用し、ユーザーに最適なプログラムを提供する事業をスタートさせている。



共同創業者のSherry Shi氏（左）とJanet Yu氏（右）

専門機関との連携：質を担保したサービス開発に向け専門家と関係構築

フェムテック事業では、エビデンスに基づくサービス開発に向けた専門家との連携が重要となる。YStoryは、医療の専門家との連携策を模索する中で、専門知識と豊富な臨床経験のある京都大学助教の江川美保氏の研究活動に注目。更年期のホルモン低下だけではなく、包括的なヘルスケアを作りたいという想いや、効果的な介入方法のエビデンス構築をすべく、臨床研究やビッグデータ解析を行うといった多様なアプローチをについて熱心に伝え、賛同が得られたという。

連携により、YStoryは**更年期に関するエビデンスに基づいた更年期特化プログラムを開発することができた**。また江川氏自身も同社との連携は、**研究成果を実用的な形で活かす機会となり、双方への好循環を実現し、更年期に関する研究とケアに新たな展開をもたらした**という。



京都大学の江川氏と連携して実施した更年期支援に向けた実証の様子

資金調達：科学的根拠に基づく説明で投資家の理解獲得

YStoryはシードラウンドで2社から資金を調達するなど、資金調達面でもフェムテック業界で注目を集めている。調達に向け同社では、フェムテックやヘルスケアなど関連分野の投資ポートフォリオを既に持っているかどうかといった情報を踏まえ、**候補となる投資家をリスト化し、各投資家への個別メールの送信など徹底的なアプローチを行った**。関心を得た投資家との面談を重ね、出資条件や支援内容について具体的に交渉を進めたという。

投資家への説明では、更年期の知識と理解が不足から「体の問題ではなくメンタルに不調がある状態」という誤った認識をされることも多かったという。しかし**更年期のメカニズムや顧客インタビューによる更年期世代のペインポイントや更年期医療の問題点を説明をすると男性の投資家から理解が得られるようになった**。

同社は単なる資金提供だけでなく、投資家との継続的な関係構築にも力を入れている。投資家から提供されるリソースやサポートを最大限に活用し、事業の成長につなげた。資金調達を得たANRI株式会社からはオフィスの提供や弁護士、弁理士の紹介といった支援も得ている。株式会社DeepCoreからはハイスpek人材紹介などの支援も得ている。



同社が提供する更年期アプリ「JoyHer」のサービスイメージ

実証事業と今後：技術を生かして、グローバル展開も視野にいたした挑戦を

今回の実証では、更年期症状に悩む就労世代の女性に向け、最大6か月の実証試験プログラムを提供し、アプリを通じた個別のケアにより、健康と生活の質を向上させられるか、検証を行った。実証では、72名（92名中）に更年期症状の改善がみられ、26名が治療介入不要レベルまでの改善が確認された。また、プレゼンティーズムの向上（介入前後で+6.8%改善）という成果が得られた。今回の実証結果・蓄積したデータを基に、①一貫したプラットフォームを活用して、セルフモニタリングより症状の早期発見し、重症化前に医療機関へつなぐ、②治療中の患者に対して、医療現場に負担を軽減できるようなデジタルソリューションソリューションを提供し、医療現場の診療効率を高めることの2点を目指す。また、中長期的にはアジアを皮切りに、世界市場に出てグローバル市場も視野にいている。更年期症状には人種間で違いが認められることを踏まえ、まずは**アジアの女性に寄り添ったソリューションの開発を目指す**。

今後は京都大学との臨床研究で得られた成果を活かして、**治療・診断の革新的なソリューションの開発**に意欲を見せる。テックカンパニーとして、AIやデータサイエンスを活かした研究をさらに加速させる方針。



3.フェムテック『導入』企業の好事例集

3.フェムテック『導入』企業の好事例集 掲載企業一覧

フェムテック等サポートサービスの導入を検討する企業向けに、本事業において実証先として参加した3企業について、導入のポイントや導入によって得られた反響等を取りまとめた。本頁では実証概要を示し、次ページ以降各社の事例を紹介する。

導入企業	株式会社ディー・エヌ・エー	明治安田生命保険相互会社	パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社
実証 代表団体	政策研究大学院大学	TOPPANエッジ株式会社	株式会社nanoni
参加した 実証事業 概要	- 女性のコンディションが見える化、ヘルスリテラシーを向上する性差医療アプリ「WaiSE」を進化させた「WaiSE Work」を開発 - 更年期や月経随伴等の症状と他の疾患の症状の見分けが困難という課題を踏まえ、健康経営、セルフケア等に活用できWaiSE Workサービスを実証 - アプリではさらに、可能性がある病気等を示し、医療機関や健診の受診を支援	- 企業における月経随伴症状に伴う労働損失への影響を可視化を目指し、ヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」を用いた実証や、各種セミナー等の複合プログラムを実施 - 労働パフォーマンスの分析・効果測定と女性従業員の労働パフォーマンス改善により、「導入費用」＜「労働損失削減効果額」となるエビデンス獲得に向け実証	- 企業が女性特有の健康課題に取り組みやすくするため、人的資本経営に及ぼす影響を分析することで、企業によるフェムテック活用の促進を目指す実証を実施 - 具体的にはフェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」を提供し、有用性を検証
活用した 製品・ サービス	- 女性のライフステージに応じた様々な心身の症状を把握し、必要に応じた受診やセルフケアをお勧めする性差医療アプリWaiSE - WaiSE Workでは、疾患予防の食事アドバイス提示等の機能を追加	「わたしの温度」 つけて寝るだけで誰でも、手軽に、簡単に高温期と低温期といった女性特有の温度リズムを自動計測できるヘルスケアデバイス&アプリ 「行動変容研修」 「オンライン医療相談サービス」（任意）	フェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」で以下の機能・サービスを提供 ・セミナー ・匿名コミュニティ ・従業員特典 ・コンサルティングミーティング

従業員規模 1,326人（うち女性従業員比率25.5%）

創業 1999年

事業紹介 ヘルスケア・メディカル分野の事業の他、ゲーム、ライブストリーミング、スポーツ・まちづくり、オートモーティブ、Eコマース等の事業を展開している。

企業サイト <https://dena.com/jp/>

きっかけ：社内アンケートで女性の健康課題を把握

社員の健康支援施策に精力的に取り組んできた株式会社ディー・エヌ・エー（以下、ディー・エヌ・エー）では、2017年より社員の健康やライフスタイルに関する課題等を把握するためのアンケート調査を実施している。アンケートの結果から、**女性社員には月経や更年期の悩み、男性社員には女性特有の健康課題を持つパートナーや女性の部下へのサポート方法がわからないといった悩みがある**ことが明らかになっており、解決に向けた施策の検討が進められていた。

そこで、以前から協業関係にあった政策研究大学院大学より、性差医療アプリ「WaiSE」を用いて女性のセルフチェックやセルフケアを促したり、可能性のある病気等を示し受診支援を行うという本実証への参加打診を受けた際、意思決定層も含め快諾したという。

実証参加への呼びかけは、女性社員だけでなく、アンケートを通じて把握した男性社員の悩みを踏まえ、社員の家族の18歳以上の女性も含めることとした。女性の健康課題解決に取り組む福利厚生等の社内施策は、「一部の社員しか享受できない」といった懸念の声が生じることもあるが、実証設計として男性の家族も対象に含めるといった工夫に加え、ディー・エヌ・エーでは以前より頭痛や肩こりといったパフォーマンスに影響のある健康課題への支援に取り組んでいた。**それぞれが抱える健康課題を楽しく解決して、いきいきと働ける環境をつくろうという社内風土により、女性の健康課題への対応を始めることについて、社内からも前向きな受け止めがあり、実証の協力に至った。**



政策研究大学院大学の実証担当者による
ディー・エヌ・エーでの利用案内の様子

導入時のポイント：情報提供範囲を明確化し、心理的安全性を担保

健康情報というセンシティブなデータを取り扱うことを踏まえ、参加は任意で、会社はサービスを紹介するだけであり、**ディー・エヌ・エー側に個人情報は一切伝わらない設計となっていることを利用者に申込時に説明**。利用者の心理的安全性を担保することを重視したという。

利用の呼びかけは、社内メールの他、社内のラウンジにチラシを置いたり、インフルエンザ予防接種会場に、政策研究大学院大学の担当者がブースを設置し、直接案内することでサービスへの理解増進につながり、50名程度の利用につなげることができた。

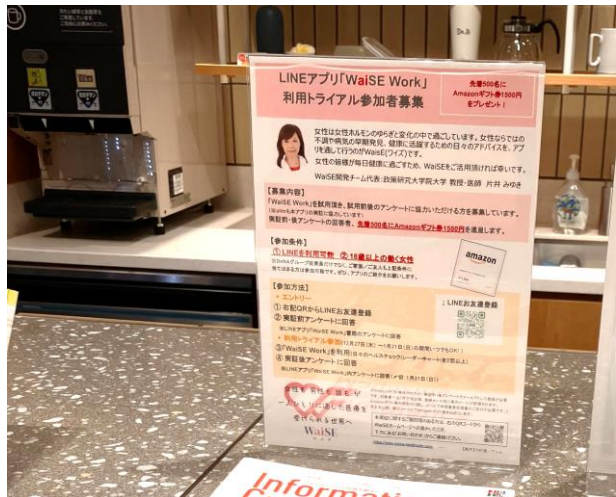
実証参加による反響：アプリ利用者のヘルスリテラシーが向上

実証参加を呼び掛けたインフルエンザ予防接種会場では、女性社員から「自分が更年期ではないかと感じていたものの、どの科に受診すればよいのかがわからなかったので、**まさに求めていた施策・サービスだ**」といった反響があった。また男性社員からも、更年期の悩みを抱える妻に勧めたいといった声もあったという。

本実証ではディー・エヌ・エー以外に所属する働く女性も含め、計435名がアプリに登録し、実証に参加した。**実証の結果、ヘルスリテラシーの向上効果が認められた**他、「睡眠や食事などの日々のセルフケアを、よりしっかりしようと思った」という回答が63.4%、「健診をよりしっかり受けようと思った、健診の結果をよりしっかり確認しようと思った」という回答が計54.8%となった。



性差医療アプリ「WaiSE」の案内



ディー・エヌ・エー社内での実証参加案内

今後への期待：QOL向上に向け今後も様々な施策を推進

ディー・エヌ・エーでは従業員の健康サポートを行う専門部署CHO（Chief Health Officer）室を設置し、社員が楽しみながら健康になっていくよう取り組んでおり、本実証以外にも社員の健康課題解決を通じたQOLの向上に取り組む様々な施策を実施してきた。同社で実証の担当をしたCHO室の畑氏は「今回のWaiSEの利活用により、女性社員や男性社員の家族がのQOL向上につながるきっかけとなった」と手ごたえを感じており、次年度以降の活用についても検討を進めている。

従業員規模	47,216人（うち女性従業員比率約9割）
創業	1881年（前身会社である明治生命保険）
事業紹介	国内大手の生命保険企業であり、従業員向けの健康づくりをサポートを推進。特に、生活習慣病、メンタルヘルスに加え、女性の健康についても注力して取り組んでいる。
企業サイト	https://www.meijiyasuda.co.jp/

きっかけ：女性社員割合が高く、健康課題解決に積極的な風土

明治安田生命保険相互会社（以下、明治安田生命）は、生命保険企業として、女性の営業担当者を多く雇用していることから、**社員の約9割が女性**という特徴を持つ。社員アンケートを通じて、中年・シニア層の約半数が更年期障害に課題を感じており、その約7割が業務に支障があることや、若年層の約6割が月経関連（PMS等）に課題を感じており、その9割が業務に支障がある状況が明らかとなっている。そのため、女性の健康への対応推進を重視しており、女性がんの検診費用補助や社内のクリニックに婦人科を新設する等、様々な施策を実施している。本実証で用いたTOPPANエッジ株式会社（以下、TOPPANエッジ）のヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」は、以前より顧客向けに生命保険のオプションサービスとして提供しており、**社員も「わたしの温度」に理解を深めつつ、社員の健康支援につなげる**目的で、実証に参加することとなった。



実証に使用した「わたしの温度」



セミナー開催の様子

導入時のポイント：参加者の勤務形態に応じて参加しやすいセミナー開催形式に

実証参加者枠は300名限定で、社内向けサイトに情報を掲載したところ予想を上回る反響があり抽選での参加となった。実証では妊活や更年期といった、社員が企業側に知られることに抵抗がある内容に触れるため、応募意向や参加者情報は匿名で取り扱うよう工夫している。

実証に加え、ヘルスリテラシーの向上や健康増進に向け行動変容を促すためのセミナーをオンラインで開催。保険営業で外回りが多い女性社員向けに、**アーカイブ配信**を提供し、参加率を高めた。

実証参加による反響：体調の客観的な把握により、働き方にも好影響



明治安田生命の人事部担当者

実証を通じて参加者からは様々な好意的反響が寄せられている。また実施結果の分析からも好影響があったことが推察される。

実証参加者からは生活面の行動変化や気持ちの変化に加え、仕事面での変化についても良い効果があったと反響が寄せられている。自分の身体と向き合うきっかけとなったといった声のほかにも、これまで基礎体温を測る習慣がなかったという実証参加者からは、「**体温変化から月経周期を正確に予測できるようになり、事前にテレワーク予定日の調整がしやすくなった**」といった具体的な働き方の変化の報告もあったという。

TOPPANエッジの実証全体の成果としても、「自分自身の状態を客観的に把握できたか」という問いに対し、84%が達成した。ほかにもヘルスリテラシーの向上や改善行動の質・量の向上についても85～86%が達成しており、これまでのアンケートでは様々な健康の悩みを抱えていた明治安田生命の女性社員が、**実証を通じてさらにいきいきと仕事や私生活に取り組めるようになったことがうかがわれた。**

今後への期待：実証という形態で導入ハードルが低下

明治安田生命では以前より女性社員の健康を支える取組を導入してきたが、こうした施策は全体予算との兼ね合いで、健康改善効果が高いと判断できたものを提供している。今回は**実証事業という形式で社員向けに試験的に導入することができたことから、今後の導入に向けても検討しやすい情報を得られた**という。

同社で実証を対応した人事担当の古瀬氏は「**女性の健康を支援する取組の結果、生産性向上といった効果は後からついてくるものであり、まずは『この会社で働いて良かった』と思ってもらえるようにすることが大切**」と話す。今後も女性が安心し、会社に愛着をもって働けるような環境づくりに向けて、フェムテック製品・サービスの活用も含め検討を進めている。

従業員規模	5,100名（うち、実証事業を実施したビューティ・パーソナルケア事業部：1,100名）
創業	2022年（パナソニック株式会社の事業会社として発足）
事業紹介	生活家電・デバイス製品の開発・製造、食サービス、賃貸住宅業者向けサービス、家電リサイクル
企業サイト	https://www.panasonic.com/jp/about/corporate-profile/organization/las.html

きっかけ：組織の多様性を推進する中で、実証を通じた働く女性の支援を決定

パナソニック株式会社の中で、日々の生活に密接に関わる家電を手がけるくらしアプライアンス社は、顧客の多様な生活スタイルを支援するため、ダイバーシティとインクルージョンを組織文化に根付かせる取り組みを積極的に推進することが必要と感じていた。この文脈で、フェムテックに重点を置きつつも多様な人材が活躍できる社内環境づくりを支援する株式会社nanoniのダイバーシティ推進サービス「carefull」に注目。両社の目指す価値観が一致し、nanoniからの実証実験参加依頼を受け、社員の健康意識とエンゲージメントの向上を目的にプロジェクトを開始した。

導入のポイント：男性社員も関心を持ちやすい切り口で参加を促進

「carefull」はフェムテックを中心とした福利厚生プログラムの提供だけに留まらず、企業の具体的な課題に合わせたコンサルティングがサービスに含まれていたことがポイントになった。くらしアプライアンス社では、従業員一人ひとりの健康と福利厚生のニーズを正確に把握することが必要であり、それに応じたプログラムの導入を実現することができた。

具体的には、健康課題の基礎知識や更年期、月経・PMSなどをテーマとしたオンラインセミナーから実施。当初は男性社員の参加をあまり得られていなかったため、課題に合わせ提供内容を検討。**女性特有の健康課題について理解を深めることはマネジメントの観点でも重要であることを周知し、上司・部下間のコミュニケーションのコツ等を盛り込んだセミナーを実施していくことで、男女双方の参加増加につながられた**という。

また、セミナーに業務時間中に参加することが難しいと考える社員も参加しやすくなるよう、案内はメールだけでなくスケジュールシステムを通じて案内したり、トップコミットメントにより重要性を伝えるといった工夫をし、効果的な導入に結び付けることができた。



セミナー開催の様子

実証参加による反響：社員の円滑なコミュニケーションが推進

実証を経て、男女双方の社員から好意的な反響が寄せられている。男性社員からは「月経やPMSがとても大変なことだとは知らなかった」といった意見が、女性社員からは「**今まで言うことができなかったが、男性の上司に生理でしんどいと伝えられた**」という報告もあったという。

セミナーは回を重ねるごとに興味も高まり、最後の配信イベントは半数の社員がリアルタイムで参加した。男女の社員やcarefullを先行導入した他社の社員が、女性の健康課題についてざっくばらんに話し合うセミナーや、暮らしアプライアンス社の事業部長が自ら登壇し、経営視点でのトークセッションを行うセミナーなどを通じて、具体的なコミュニケーションの手法や、**会社としての女性の健康課題への取組方針について理解を深めるきっかけを提供**。社員にとっては帰属意識やロイヤリティ向上といった効果も期待される。

実際にnanoniの実証事業の成果としても、絶対的プレゼンティズムが改善した従業員が全体の37.7%にのぼった。また、エンゲージメントサーベイ項目「あなたが選べるとして、あとどのくらい当社で働きたいと思いますか？」という設問について、パナソニック全体と比べサービスを導入した暮らしアプライアンス社の女性社員では9ポイント高かったという結果も得られている。



セミナーの一部として開催したトークセッションの様子



パナソニック暮らしアプライアンス社の担当者

今後への期待：規模・範囲を拡大した支援策実施を検討

実証事業期間中という時限的な導入であったが、担当の東野氏は「男女の社員、経営層等会社全体だけでなく、**組織のコミュニケーション活性化や働き方改革等風土づくりにも良い効果があった**」と実感を持つ。今後も範囲や規模を拡大しながら、同様の事業連携を検討している。福利厚生の新規導入は通常慎重かつ長期にわたる検討が必要となるものの、本事業では実証参加というかわり方ができたため、職場コミュニケーション活性化など風土改革や社員満足度・エンゲージメントでの効果を実証し、くらし事業の更なる価値創出にもつながることを期待したいと振り返る。

本事業に関するお問合せ

フェムテック等サポートサービス実証事業事務局
朝日広告社（PMO担当 N T Tデータ経営研究所）
meti_femtech@m.asakonet.co.jp



令和6年度最終報告会の様子は二次元コードまたは下記リンクよりご覧いただけます。

<https://youtu.be/iOAKQHP80x0>